

令和 6 年度 第 1 回豊田市文化芸術振興委員会 会議録

○日時

令和 6 年 7 月 16 日（火） 午前 10 時～正午

○場所

教育委員会会議室（豊田市役所東庁舎 6 階）

○出席者

（委員）※敬称略

- ・高北幸矢（委員長）、高橋秀治（副委員長）、藤田雅也、石黒秀和、伊丹靖夫、磯村美沙希、石川紀子、中佳子

（関係課）

- ・スポーツ振興課 | 太田主幹
- ・博物館 | 鈴木副主幹
- ・美術館 | 塚田副主幹

（事務局）

- ・生涯活躍部 | 曾我副部長
- ・文化振興課 | 相田課長、藤野副課長、西村担当長、志村主査

○傍聴者

なし

○要旨

曾我副部長あいさつ

令和 7 年度に「第 3 次豊田市文化芸術振興計画」を策定する予定である。第 2 次計画の総括と、第 3 次計画策定に向けて、委員の皆様には引き続き協力をお願いする。また、令和 6 年度に「第 9 次豊田市総合計画」を策定する。その中で、こどもが多世代とのつながりの中で、多様な遊び・学び・体験ができる機会の充実とある。この視点を持って、ご協議いただきたい。いずれの議題も委員の皆様から忌憚ない意見を伺いたい。

議題 1

計画基本施策に係る実績報告【資料 1】

委員

- ・「豊田市民美術展の開催」について、市外からも参加できた方が美術展自体のレベルが上がってよいのではないかと。市長賞等に選ばれた後は市民美術展に応募しなくなってしまう傾向がある。
- ・「農村舞台アートプロジェクト」については、事務局が大変になると思うが、もっと地元の人たちのエネルギーを上手く巻き込んでやるべき。以前は実行委員会を組織してやっていた。アートプロジェクトを企画できる人が地域に育つとい

う事は、取組の成果になる。

事務局

- ・市民美術展は、市民の創作意欲の向上のための事業なので、市民美術展で受賞した人が更に上を目指すというのは良いことではある。令和5年度から市長賞受賞者展を始め、前年の受賞者のステップアップの場を設けた。創作意欲の向上や、全体的な底上げが必要と考えており、まずはこういったところから始めている。

委員

- ・他の市民展も同じような悩みを持っている。受賞者のマンネリ化を防ぐためには、受賞者は上を目指してほしいし、逆に受賞者が受賞後も応募してくれた方がレベルは上がるかもしれない。問題意識を持って、検討し続けることが大事。昨年度と同じやり方であっても、何となく継続するのではなく、検討した上での継続は意味があるものだと思う。

委員

- ・全般に関して、この施策1から4まで結果的には民間・市民の自発性をどう活性化させていって、理想論で言えば、最終的には行政がそれほど手をかけなくても市民がそれぞれの活動をまちで豊かに行っているというところにどう持っていくかがこの計画の意義だと思う。
- ・市民主体の活動がどこまで進んできているか。施策1と3にある市民アートプロジェクトやまちなか芸術祭、その他の様々な関係分野との有機的な連携といったところが、いかに成果に繋がっていくのかを評価していきたい。
- ・農村舞台アートプロジェクトはじめ、多くの事業を（公財）豊田市文化振興財団が事務局として運営しているが、目的の部分が見えなくなっている懸念がある。人事異動により、専門性や、もともと市民と一緒に取組んでいた目的が薄れてしまっていないか。人事異動があっても、その事業の目的を市と財団と市民が、どう共有していくかに大きな課題がある。
- ・定量的評価と定性的評価についても過去議論してきたが、今回よくまとめてあると思う。数字よりも、理想としてきた文化施策がどこを目指しているかが大切である。自発的な市民の文化活動がどれくらい生まれてきているか、まちを歩いてもそういった方向に向かっていると感じる。このまま計画を推進してほしい。コロナでいろいろなことが変わった。必要なものを見極めて、事業のスクラップも必要な時期である。
- ・子どもの施策について、いかに日常の中でアートに触れてもらうか。日常の中にアートが自然にある社会になるよう様々な考えていかないといけない。

委員

- ・資料が分かりやすくまとめられており、課題についてなど次の展開に向けての量的かつ質的な分析がされている。
- ・子どもたちの感動体験や体験機会の提供、市民参画に関する取組は、振り返りを重ねながら、継続していくこと大切がだと思う。
- ・4つの柱（施策）がある中で、複数の施策にまたがる取組もあり、そのように様々な視点から施策を評価することは重要である。
- ・この資料は市民に公開して、共有し、今後の課題など市民にも意見をいただいて

はどうか。

事務局

- ・資料や会議録は市ホームページに公開する。次期計画の策定に向けては、この資料に記載しているような計画の進捗を振り返り、課題などをまとめてパブリックコメントを行う予定である。

委員

- ・市の施策の取組を市民とより共有していくためには、例えば、市のホームページで事業をクリックするとその活動の写真などが見えるといった公開方法を検討していくと良いと思う。

事務局

- ・実現できたらよいアイデアである。検討する。

議題 2

部活動の地域移行について【資料 2】

委員

- ・部活動の地域移行を前向きに進めていただいてありがたい。音楽の先生に聞いたところ、移行中の今はまだ、教員の負担軽減は感じていないという意見が多いが、移行後は教員の負担軽減になると期待をしている。子どもたちは勉強以外に打ち込めるものがあると、学力も伸びるというデータがある。平日はいつから移行するのか。

事務局

- ・令和 8 年の夏の大会後の移行を予定している。

委員

- ・平日も移行した場合、指導者は増えるのか。また、指導者の謝礼も同じか。

事務局

- ・地域指導者を増やし、謝礼は同額を予定。

委員

- ・地域のラグビー教室では、指導者は目的がお金ではなく子どもたちと一緒に身体を動かすことという方も多い。企業のバックアップがあり、初心者の子どもも参加できるラグビー教室が平日に安価に開催されている。企業の力も借りられるとよい。

委員

- ・吹奏楽部の楽器について心配している。地域移行されてからも、楽器メンテナンスや新規購入について予算を確保し、子どもたちがいきいき活動できるようにしてほしい。

委員

- ・豊田市が子どもたちのために、市が中心となって新しい体制を作ろうとしていることは高く評価できる。
- ・教員が不在でも校内で活動が可能になるような新セキュリティシステムを導入していくとの説明があった。システム自体は必要だと思うが、地域指導者に移行された後であっても教員による部活動の参観などがあるとよい。部活動は子どもた

ちの成長に深く関わる取組なので、移行期間が終わっても、地域指導者と教員の関わりを何かしら持つ必要があると思う。

- ・研修制度が充実するとよい。指導者の子どもへの関わり方の部分が一番大事になってくる。子どもの理解の部分についても研修が必要なので、具体的なプログラムの検討を引き続き進めてほしい。

委員

- ・親はどう思っているのか気になる。機会の提供が当たり前と思われてしまうのは、今後にとって良くないこと。

事務局

- ・方針案についてアンケートを行ったところ 6,000 人の方から回答があり、7 割が好意的な意見だった。自由記入欄には、「教員が大変だから地域移行は仕方ない」という意見が見受けられたことから、一定の理解は得ていると思う。

委員

- ・全国的な課題であるが、中でも豊田市は先進的な自治体。豊田市が、できる限り手本となるように、この取組を進めていることが分かる。まずは、「当市はこうする」と方向性を示してくれることが、全国的には重要なこと。

委員

- ・親目線で見ると、最も部活動に恩恵を受ける点は、放課後に子どもたちの居場所があることだと思っている。平日の放課後に、地域指導者が確保できるのかが課題。交流館の剣道教室などの習い事は、夜間の時間帯が多い。そういった習い事を、豊田地域クラブ活動に移していただき、放課後に習えるとよい。

事務局

- ・豊田地域クラブ活動の種目を新たに加えるかどうかは、学校運営協議会で話し合っていたなど、地域で考えていただきたいと思っている。交流館での活動が豊田地域クラブ活動に加わることもあり得るが、謝金の問題や、習い事教室との競合といった問題もあるため、現時点では、今ある部活動をベースとしている。今後地域で新種目を検討していけるルール等を具体化していく。

委員

- ・学校運営協議会や地域学校共働本部には、子育て世代が少ないことが気になっている。

委員

- ・夜の時間帯に交流館等で文化・スポーツ教室があるが、平日の今の部活動の時間帯を対象とした活動が部活動の地域移行と考えてよいか。そういった時間帯に手の空いている人は限られている。

事務局

- ・時間は今の部活動の時間を継承するため、ご指摘のとおり平日の指導者確保は難しいことが想定される。保護者の方の協力も得たいと考えている。

議題 3

第 3 次計画の策定に向けた意見交換【資料 3】

委員

- ・人工知能の研究者の話を聞く機会があった。A I 時代に次世代に期待される力は、対話力と創造力と言われた。美術館では対話型鑑賞をしているが、そういった事が子どもたちに力を付けていくことになるだろう。
- ・施策について言えば、目的が何かというところのブレなさが大事。それは、文化的な豊かさを享受できるまちになっていくことだと思っている。経済状況に関わらず、文化芸術に触れて育つことが大切という意識を持つことが大切である。10 年先を見据えるとなると、学校との連携も大切。博物館ができ、美術館も一緒に博学連携を進めているが、来てくれた小学生たちの経験値が上がっていく。若い世代の文化的な経験を豊かにさせていくことが必要だと思う。

委員

- ・豊田市は誰もが認めるものづくりのまち。ものづくりのまちは、クリエイティブなまちであって、アートなまちと繋がっていくと思うが、まだ固いイメージである。ものづくりのまちという印象はあっても、アート、文化芸術については昔から文化不毛の地と言われている。世界中からクリエイティブな人材は集まってきているが、その人材の活用はまだ不十分だと思う。次の 10 年で豊田市といえばアートなまちだねと言われるようなまちづくりができるとよい。
- ・次期の計画でも、基本理念、目指す姿、基本的な骨子はすでにいいものだと思う。そういったところを変えずに、ブレずに、あとは具体的な施策をブラッシュアップし、詰めていくことが必要である。

委員

- ・これまでの 10 年以上に、これからの 10 年の変化はとても大きいと思う。A I との共存などは、社会においては進歩であるが、教育や文化においては課題や検討すべき点も出てくるのではないかな。ものごとに対して、新しい価値を自ら創造的に見つけ出していくことが大切で、大人も子どもも問い続ける必要が出てくる。思考力や判断力や表現力がキーワードになる。「創造し続けるまちづくり」、「創造し続ける市民の育成」といった視点が必要となってくる。

委員

- ・自分にとっては施策 2 が実践者として大切。社会というより、自分とのコミュニケーション能力が求められるのではないかな。

委員

- ・基本骨子は現計画のままだと思う。次の 10 年を見据えると、文化的な展開がまちなかでは達成できていると思うが、それ以外の地域では身近でアートに触れられる機会が少ないということからも、底上げというか、全体がもっと外側に広がっていく施策が今後は必要。誰もが住んでいる場所の近くで、アートに触れられる状況になることではじめて、まち全体にアートが日常化していくのではないかな。

事務連絡

事務局：次回開催は令和 6 年 10 月頃を予定。

以上